



Title	哲学カフェに参加して感じたこと
Author(s)	大洞, 真佐子
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 12, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5604
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

哲学カフェに参加して感じたこと

~~大洞真佐子~~

哲学カフェに参加して、幅広い意見の中で私なりの新しい発見も有り、改めて「ケア」について考える機会が持ててよかったです。その中で、「ケア」はリパブリック（契約的・規範的・公的）とデーモス（属性的・個別の・私的）では、対等であっても質が違うのではないかと、参加者の意見を聞きながら思った。たとえば、リパブリックでは常に相手の立場に立った「ケア」を心がけなければならないが、デーモスの場合は、自分の立場も主張することによって、お互いに理解し合える面がある。そのことにより、時には「傷つけあうケア」も成立するのではないか。

私自身、老人福祉施設に職員として在籍して、「より良いケア」を目指して満足を得られるように頑張ってきたという、多少の自負心があった。

しかし、今回の哲学カフェに参加して、今まで行ってきた「ケア」をインサイドワーク（自らを美化）にしないでアウトサイドワーク（自ら明確にして検証）して今後に生かしていくことの必要性を感じた。

哲学カフェには、「自分を見つめ直す」「色々な考えを知る」こと等よい機会であった。又、自分の考えを話すことでの他の参加者が聴いてくれることによって「ケア」されたような気分も、哲学カフェのよさかもしれない。

身体的ケアや精神的ケアでも、受け手がホジティブに考えられるような「ケア」こそ大切だと思う。

人間は誰も回りに「ケア」され合って支えられていることを強く感じる。

これからも、相手の意図と違う「間違ったケア」も時にはあるかもしれないが、その人にとって本当に必要な「ケア」は何かを常に考えて接していきたい。

今回、大阪よりご参加いただき本当に有難うございました。

（だいどうまさこ 明治学院大学 社会福祉学科3年）